

翔

2006 April

No.179

百万石蝶談会



石川県に於けるアサギマダラの北上調査2005

松井 正人

アサギマダラは、渡りをする蝶として有名で、春には日本列島を北上し、秋には南下している。日本列島を北上するときには、海岸に生育するスナビキソウに飛来することが知られ、2004年に行った北上個体の石川県への飛来調査（松井、2005）では、5月末を中心とした3週間に、多数の飛来が観察されている。2005年は、この調査に引き続き、石川県の海岸で北上個体の飛来調査を行ったので報告する。

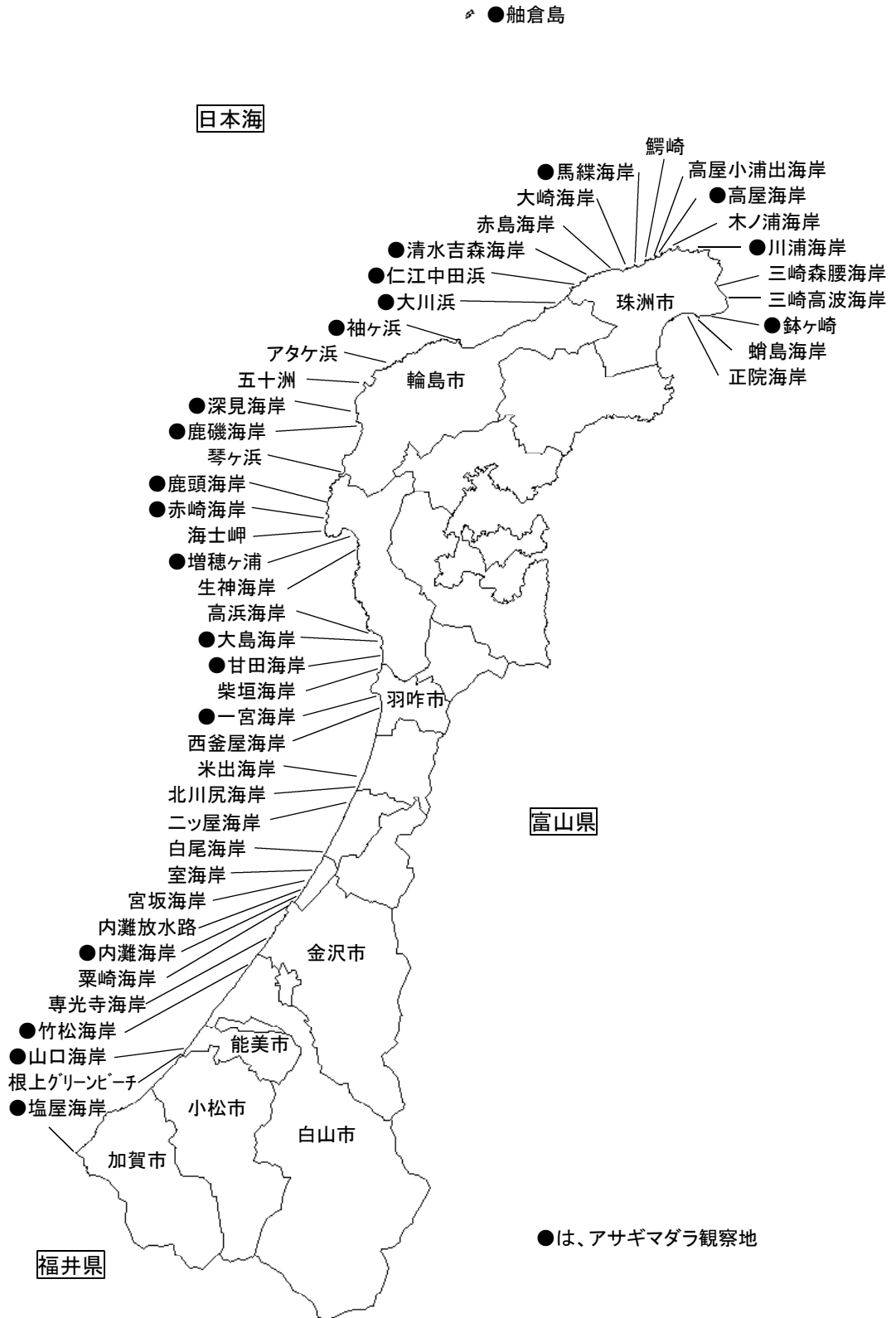
■スナビキソウの生育調査

珠洲市から加賀市に至る約370kmの海岸で、比較的簡単に海岸に近づくことができれば、スナビキソウの生育調査を行った。スナビキソウは、4月16日から芽吹き始め、5月に入ると花が咲き始めた。金沢市以北では、おおかれ少なかれスナビキソウは観察できたが、白山市から加賀市にかけては、限られた場所で少数を観察するに止まり、小松市では観察できなかった。

表-1. スナビキソウ観察地

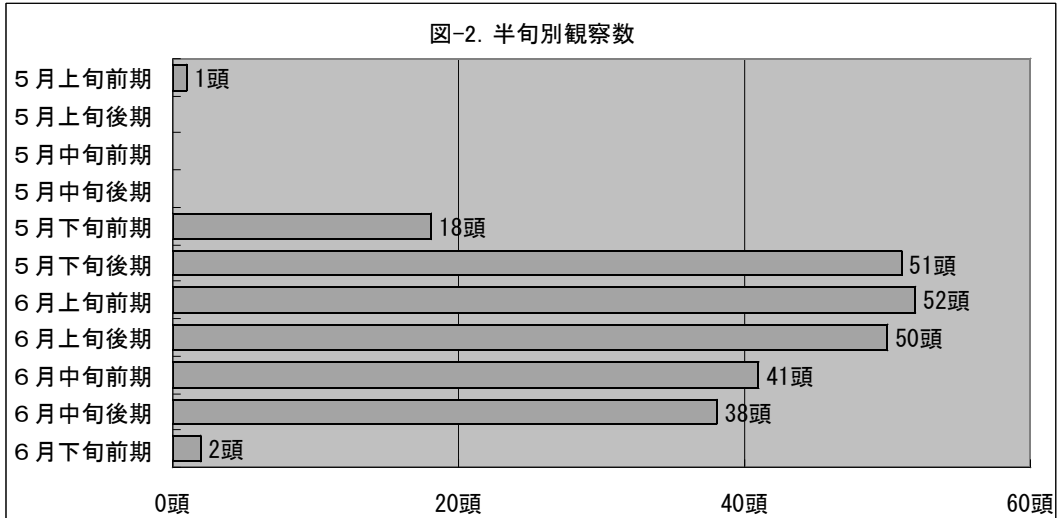
No	スナビキソウ観察地	量	No	スナビキソウ観察地	量
1	珠洲市正院海岸	少ない	25	羽咋郡志賀町赤崎海岸	多い
2	珠洲市蛸島海岸	少ない	26	羽咋郡志賀町海士岬	少ない
3	珠洲市鉢ヶ崎	少ない	27	羽咋郡志賀町増穂ヶ浦	多い
4	珠洲市三崎高波海岸	少ない	28	羽咋郡志賀町富来生神海岸	少ない
5	珠洲市三崎森腰海岸	少ない	29	羽咋郡志賀町高浜海岸	少ない
6	珠洲市川浦海岸	多い	30	羽咋郡志賀町大島海岸	多い
7	珠洲市木ノ浦海岸	少ない	31	羽咋郡志賀町甘田海岸	多い
8	珠洲市高屋海岸	少ない	32	羽咋郡志賀町柴垣海岸	少ない
9	珠洲市高屋小浦出海岸	少ない	33	羽咋市一宮海岸	多い
10	珠洲市鰐崎	少ない	34	羽咋市西釜屋海岸	少ない
11	珠洲市馬縹海岸	少ない	35	羽咋郡宝達志水町米出海岸	少ない
12	珠洲市大崎海岸	少ない	36	羽咋郡宝達志水町北川尻海岸	多い
13	珠洲市赤島海岸	少ない	37	かほく市二ッ屋海岸	多い
14	珠洲市清水吉森海岸	少ない	38	かほく市白尾海岸	少ない
15	珠洲市仁江中田浜	少ない	39	河北郡内灘町室海岸	少ない
16	輪島市舳倉島	多い	40	河北郡内灘町宮坂海岸	少ない
17	輪島市大川浜	少ない	41	河北郡内灘町内灘放水路	少ない
18	輪島市袖ヶ浜	多い	42	河北郡内灘町内灘海岸	多い
19	輪島市アタケ浜	少ない	43	金沢市粟崎海岸	少ない
20	輪島市門前町五十洲	少ない	44	金沢市専光寺海岸	少ない
21	輪島市門前町深見海岸	少ない	45	白山市竹松海岸	少ない
22	輪島市門前町鹿磯海岸	少ない	46	能美市山口海岸	少ない
23	輪島市門前町琴ヶ浜	少ない	47	能美市根上グリーンビーチ	少ない
24	羽咋郡志賀町鹿頭海岸	多い	48	加賀市塩屋海岸	少ない

図-1. スナビキソウ観察地とアサギマダラ観察地



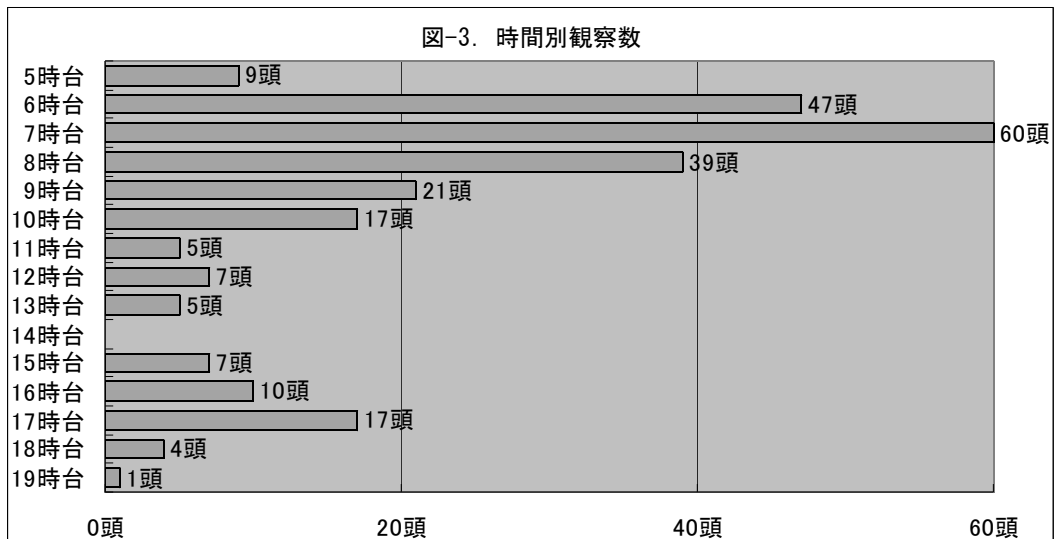
■ 飛来期間

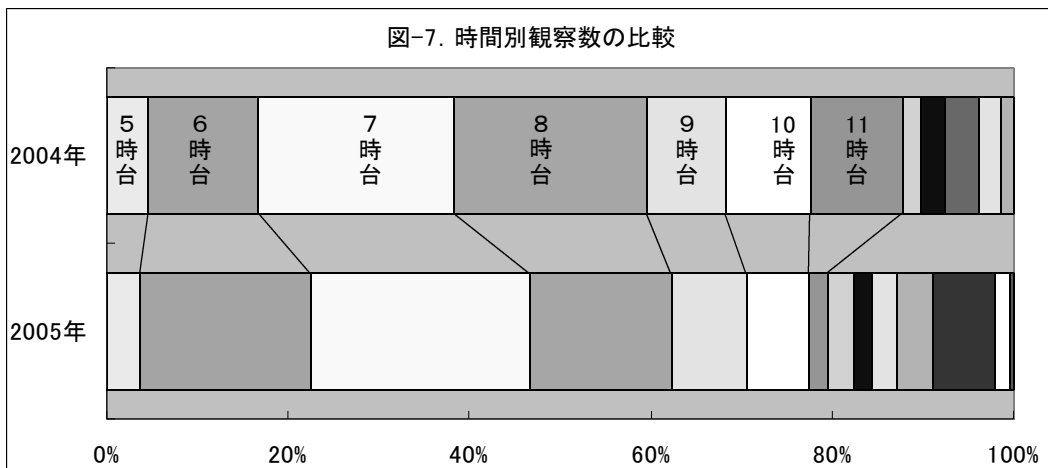
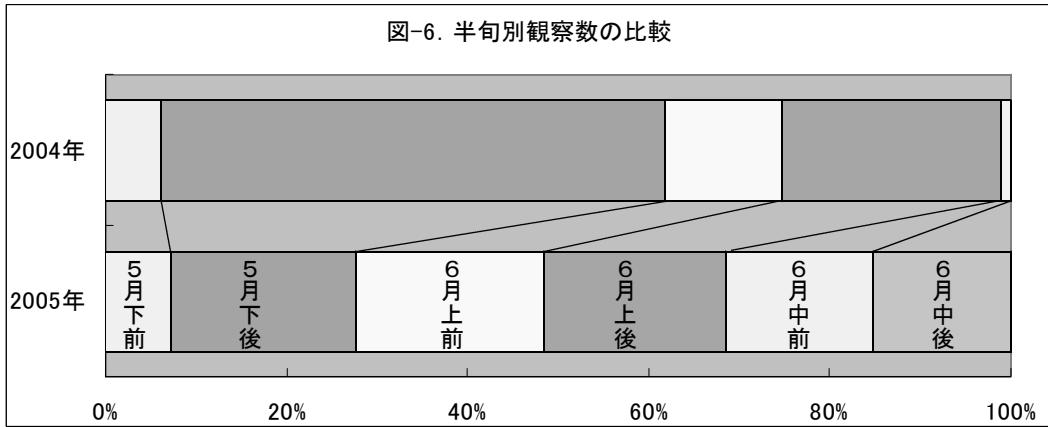
アサギマダラの飛来は、5月上旬から6月下旬にかけて観察され、5月下旬後期から6月上旬後期（5月25日から6月10日）にかけて観察ピークがあり、この間に全体の60%となる153頭が観察され、5月下旬後期から6月中旬後期（5月25日から6月20日）にかけて全体の92%となる232頭が観察された。



■ 飛来時間

飛来の観察時間が記録されているのは249頭で、早朝5時台から19時台にかけて観察され、7時台に大きなピークがあり、17時台に小さなピークがあった。観察数は、午前中に多く、6時台から8時台の3時間で全体の59%となる146頭が観察され、6時台から10時台にかけての5時間で全体の74%となる184頭が観察された。





■謝 辞

この報告にあたり、常日頃からアサギマダラの調査にご協力いただき、舢倉島の調査記録もまとめていただいた日吉芳朗・南賀子ご夫妻、調査にご協力いただいた林 宏初、樋口 篤、樋口陽平、日吉宏朗、日吉弥生、本多郁夫、細沼 宏、飯田 昭、宮城信男、塩島保二、橘 英子、竹谷宏二、寺内芳江、富沢 章、山前美智子の各氏、舢倉島の観察記録を寄せていただいた阿部佐知子、岩田富美子、古瀬、鮫島富夫、鮫島佳代子の各氏、スナビキソウの文献調査でお世話になった竹田 勉、徳本 洋の両氏、これらの皆様に厚くお礼申し上げます。

《 参考文献 》

松井正人(2005)アサギマダラの春の移動に関する新しい知見. 翔(173):1-8.
 中川泰邦・天田清人・北 清治(1978)石川県の海浜植物. 石川県教育センター紀要(11):15-60.
 中村長嗣・山本秀紀(1997)石川県の海浜の植物の分布と生態. 石川県教育センター紀要(55):1-39.
 《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2005年の石川県輪島市におけるアサギマダラのマーキング調査

日吉芳朗・日吉南賀子

2005年の輪島市におけるアサギマダラのマーキング調査では、三つの大きなできごとがあった。その一つは、これまで気にもとめなかった身近な地の袖ヶ浜における初夏のマーキングであり、二つ目は、過去5年間続けてきた鉢伏山でのマーキングに終止符を打ち、宝立山をそれに代わるマーキングポイントとみなして、これまで以上に力を入れたことである。三つ目は、本年より期待していた舳倉島分校の生徒諸君によるマーキングが、不可能になったことがある。

なおまた、海岸でのマーキングの際、スナビキソウで吸蜜する1♀を目撃したこと、更に1♂が同一地点に5日間も滞在していたことが確認されたことも、たいへん興味深い。

■初夏の海岸の状況

輪島市袖ヶ浜は、古くから景勝の地とされている輪島崎町鴨ヶ浦海岸に隣接し、夏は海水浴客でにぎわう砂浜である。ほぼ500mにおよぶ砂地には、海浜植物はほとんどみられないが、光浦ポケットパーク下の100mあまりの区間にのみスナビキソウが点在し、5月中頃より花をつけ始めていた。この地のスナビキソウの存在をご教示くださったのは藤井恒氏で、灯台下暗しとは、まさにこのことであろう。5月20日よりアサギマダラの飛来に注意し始めたところ、5月25日の早朝に初めて1♂にマークすることができた。同日の11時頃（快晴・風弱く・さわやか・19℃）、早朝とほぼ同じ地点のスナビキソウの花に3頭が寄り添うように吸蜜していた。近づいても逃げる気配もなく、ひたすら蜜を吸っていたが、その中の1頭が♀で、なおしばらく様子を見た後、ネットをかぶせた。3頭同時捕虫で、いずれも新鮮な個体であり、腹部は蜜で飽満状態であったことから、これらは飢餓状態にあったことが推測される。♀は、腹部にしこりと暗線（交尾斑）がみられたことから既交尾であった。3頭ともマークし放蝶した後、なおしばらくこの地にとどまって調査



を続けたが、他の個体は現われず、夕方16時頃に出向いた時、姿はなかった。以後、この地のアサギマダラは、朝の温度が高まる前に多く現われ、日中はほとんどその姿をみることはなかったが、夕方には少数ながら出現した。詳細は表1のとおりであり、最多マーキング日は6月8日で14頭、最終マーク日は6月20日で2頭であった。なお、6月2日にマークした1♂は、3、4、7日も捕虫され、海岸の同一地点で5日間もとどまるのは珍しいと思われる。しかし、この地でマークされた個体の他所での再捕獲は無かった。マーキング中に海岸で出会ったお二方によると、長年にわたって早朝にこの浜を散歩しているが、この蝶は、ほぼ毎年この時期に現われるとのことである。

表1 2005年の輪島市における5月～6月のマーキング頭数

月日	時刻	計(内訳)	袖ヶ浜	大川浜	深見一乗	温度	天気
5月25日	7:25	1(1♂)	1♂			17	晴
5月25日	11:03～11:06	3(2♂1♀)	2♂1♀			19	晴
5月27日	6:45～6:55	2(2♂)	2♂			20	晴
5月27日	9:08	1(1♂)	1♂			27	晴
5月28日	8:26	1(1♂)	1♂			20	曇
5月29日	9:24	1(1♂)	1♂			21	晴
5月30日	11:21	1(1♀)			1♀	21	曇
6月2日	6:35～7:05	4(4♂)	4♂			21	曇
6月2日	8:53	1(1♂)	1♂			22	曇
6月3日	6:37～7:18	2(2♂)	2♂			22	曇
6月4日	6:47～6:56	2(2♂)	2♂			21	曇
6月4日	6:37～6:44	2(2♂)		2♂		19	曇
6月5日	5:16	1(1♂)	1♂			16	曇
6月5日	10:22～10:31	2(2♂)	2♂			20	曇
6月7日	7:15～7:19	2(2♂)	2♂			22	曇
6月8日	6:52～8:11	12(12♂)	12♂			23	曇
6月8日	17:03～17:07	2(2♂)	2♂			24	晴
6月10日	6:12～6:43	3(3♂)	3♂			20	曇
6月12日	7:05～7:23	3(3♂)	3♂			20	曇
6月15日	10:32	1(1♂)	1♂			24	曇
6月15日	17:23	1(1♂)	1♂			21	曇
6月16日	6:08～7:17	3(3♂)	3♂			20	曇
6月18日	6:18	1(1♂)	1♂			20	晴
6月20日	7:03～7:18	1(1♂)	1♂			23	晴
計		53(51♂2♀)	49♂1♀	2♂	1♀		

輪島市大川浜は、昨年の海岸マーキングの主要ポイントで、5月26日、6月4日と7日に出かけたが、本年は漁港海岸災害復旧工事と称するやや大規模な工事が行われていたため、スナビキソウの大部が失われていた。しかし、残った株がかなりの数の花を咲かせていたものの、工事騒音のためかアサギマダラがよりつくことはなかった(マークした2頭

はそばの林内で捕虫したものである)。

輪島市大沢町アタケ浜へは、5月25日と28日、6月7日に出向いたが、昨年は、ほぼ2箇所を中心にかなりの株がみられたが、本年は株数も激減し、花もほとんどつけていなかった。

鳳珠郡門前町琴ヶ浜は、藤井 恒氏からスナビキソウが非常に多いと教わっていたが、5月28日に訪ねたものの、わずか1箇所に数株を見出したにすぎなかった。

■鉢伏山と宝立山の状況

2000年から5年間、輪島市でのマーキングの重要ポイントであった鉢伏山で、マーキングができなくなった。1～2年前から危惧していたことであるが、植林されたスギの成長が著しく、山際の日陰が多くなったことと、草刈が行われなくなったため、背丈の高いススキなどが、吸蜜植物のヨツバヒヨドリへの日照をさえぎり、その成長を阻害してしまったことである。そのため、マーキングを行っていた小径も、ほとんどその形跡を残さず、小径の周りにあった多数のヨツバヒヨドリも全滅状態で、アサギマダラの姿も皆無に近いものであった。その影響もあってか、鉢伏山と高洲山を結ぶ林道高鉢線にあるヨツバヒヨドリへの飛来もいって少ないもので(表2中の鉢伏山でのマーク個体16頭のうち12頭が高鉢線でのもの)、現状をみる限りこの山とその周辺でのマーキングは終止符が打たれた感が強い。さりとて、この地のように多数のヨツバヒヨドリが咲きほこった場所とそれに続くブナ林を兼ね備えたような場所を探すのは容易なことではない。

表2 2005年の輪島市における7月～9月のマーキング頭数

月日	時刻	計(内訳)	宝立山	鉢伏山	高洲山	温度	天気
7月17日	16:25～16:40	2(2♂)		2♂		27	晴
7月18日	10:35～11:34	3(2♂1♀)		2♂1♀		28	晴
7月19日	8:38～9:22	7(7♂)		7♂		25	晴
7月20日	6:35～7:13	2(2♂)		2♂		21	曇
7月24日	6:41	1(1♂)		1♂		21	曇
7月30日	9:45	1(1♀)		1♀		28	曇
8月5日	7:15～9:08	24(15♂9♀)	15♂9♀			27	晴
8月6日	6:05～8:22	31(21♂10♀)	21♂10♀			26	晴
8月7日	5:40～7:07	9(6♂3♀)	6♂3♀			24	曇
8月9日	5:40～7:02	4(3♂1♀)	3♂1♀			22	曇
9月1日	8:15	1(1♂)	1♂			25	晴
9月10日	8:43～9:10	4(2♂2♀)	2♂2♀			23	曇
9月10日	11:11	1(1♂)			1♂	25	曇
9月12日	8:42	1(1♂)			1♂	23	晴
9月12日	10:21～10:25	3(2♂1♀)			2♂1♀	25	晴
9月13日	8:31～9:35	13(4♂9♀)	4♂9♀			24	曇
9月18日	8:32～9:23	9(6♂3♀)	6♂3♀			23	曇
9月27日	9:27～10:14	3(2♂1♀)	2♂1♀			19	晴
計		119(78♂41♀)	60♂38♀	14♂2♀	4♂1♀		

そこで、筆者らは個体数において鉢伏山にはるかに及ぶものではないが、宝立山にマーキングポイントを移した。この決断が遅れたため初マークは8月5日となり、すでにピークを過ぎていたようにみえた。当日は24頭、6日に31頭とそれなりの数をかぞえたものの、7日から減少傾向に向かった。しかし、9月10日を過ぎて再び数を増したが、20日頃から終息に向かったようである。その原因は、ヨツバヒヨドリとコシアブラの花の枯れかと思われる。とはいえ、この地で100頭に近い数のマークができたことで、明年に期待をいだかせるものであった。なお、本年の再捕獲は、宝立山から御岳への1頭にすぎなかったが、この地での再捕獲は初めてである。

2005年8月5日 石川県輪島市宝立山 日吉芳朗 マーク

2005年8月15日 長野県木曾郡三岳村御岳ロープウェイ 喜多隆三 再捕獲

■ 舳倉島の状況

2001年より、上野台中学校舳倉島分校の3代にわたる理科の先生のご協力により、2005年より生徒諸君によるマーキングが行われることになっていた。ところが、生徒減による分校の休校が現実となり、実現できなかつたことは痛恨のきわみであった。一方、2軒の民宿に委託してある記録ノートより、本年も、ほぼ例年のごとく5月中旬より6月中旬にかけてと、9月中旬に飛来があったことがうかがえた。また、島に居住する海女さんの白崎みさ氏によると、9月15日から20日にかけて、けっこうな数のアサギマダラが姿をみせていたとのことである。さらに、筆者が渡島した9月30日、バードウォッチャーの方が1頭目撃の報をよせてくださった(表3)。

表3 2005年の舳倉島におけるアサギマダラの記録

月 日	観察時間	観察数	観察地	観察者	天気
5月1日	13:10	1頭目撃	中の道	鮫島富夫・佳代子	曇
5月22日	16:20	1頭目撃		阿部佐知子・岩田富美子	晴
6月12日		2♂目撃	NTT電波塔	古瀬	
6月14日		1♀目撃	校庭横	古瀬	
9月15~20日		多数目撃		白崎みさ	
9月17日	13:15	3頭目撃	診療所裏	黒木明	晴
9月18日	8:15	2頭目撃	中の道	黒木明	晴
9月30日	11:00	1頭目撃	北ズラ海岸	バードウォッチャー	曇

最後に、輪島市周辺におけるスナビキソウの分布情報をお知らせいただいた藤井 恒氏、舳倉島の調査にご協力くださった白崎みさ、鮫島富夫・佳代子、阿部佐知子、岩田富美子、古瀬、黒木明の諸氏、民宿つかさと民宿つきの皆さんに厚くお礼を申しあげる。

会員の動き・しゃばの動き

■1月20日石川むしの会と合同新年会

金沢駅前、「よし久」で合同新年会を開催。心配していた積雪も無く、神奈川や愛知からの参加もあった。今回は、大串先生の出席もあり、活動盛んな虫屋18人が、楽しく語り合った。

■金沢城址のトゲナナフシは無紋タイプ

金沢産のトゲナナは無紋タイプで、それ以外の産地は有紋タイプと思われる。金沢城址で行われた全国緑化フェアのどさくさ時に、過去に記録が無かった同地で唯一採集されたトゲナナフシの出所が気になっていたが、採集者の大串先生に標本を見てももらったところ、無紋タイプだった。

■輪島市と志賀町が接した

外浦を羽咋市から北上すると、志賀町、富来町、門前町を経て、ようやく輪島市にたどりついていたが、今回の大合併で志賀町の隣が輪島市になってしまった。なれるまで時間がかかりそうだ。

■2月4日は5年ぶりの真冬日

立春の4日は強い寒気が南下し、石川県各地は日中の気温が氷点下の真冬日となった。金沢では5年ぶりとなるが、ムラサキツバメは乗り越えられるだろうか。

■日本産アリ類画像データベース

このHPのイメージ検索では、アリが地域別に最普通種から極めて稀まで4種類に分けられている。中部地方を見ると、最普通種が25種、普通種48種となっているが、石川県昆虫目録のアリは51種。記録がどんどん増えそうだ。

■石川県指定希少野生動植物種の指定

1年前に、特に保護する必要が有るとして、イカリモンハンミョウ、シャープゲンゴロウモドキが石川県指定希少野生動植物種に指定され、今回新たにマルコガタノゲンゴロウが指定されようとしている。保護に異論はないが、保護の方法を探るには、生態の解明が欠かせない。

■じわりと広がるスジアカクマゼミ

2001年の発見当時は、金沢競馬場とそれに隣接する公園から鳴き声が聞こえてきたが、2005年の夏は、それらを取り巻く地域でも鳴いていた。発生地が広がっているかもしれない。抜け殻調査で確かめてみたい。

■輪島の蝶、80種計画

輪島で記録されている蝶は、現在77種。これは、輪島の蝶相解明に努めている日吉氏の成果のたまものだが、氏は80種計画を立てている。さて、輪島の蝶に仲間入りするのは何だろうか。シータ、ムラサキシ、ウラゴマダラ、ウラクロあたりだろうか。

■輪島でシータテハを探そう

輪島に隣接する珠洲市清水のオヒョウからシータテハが見つかっている。輪島にも、町野、一乗、細田などにオヒョウがあり、名舟も可能性が高い。オヒョウからの幼虫観察が、シータテハ発見の近道だ。

■展翅をはずさなくっちゃ

そろそろシーズンが始まるが、昨シーズンの展翅や展足がそのままになっている。針をはずして、ラベルを付けて。防虫剤の補給もある。あ～大変だ。

■ 20年の長きに渡った中西氏の厚意

1985年4月の完成以来、城南管工の新社屋を、今日まで中西夫妻のご厚意によって例会場所として使ってきたが、ここでの例会も、2月例会で最後となった。20年もの長きに渡り、会場を提供し、毎回準備をしていただいた中西夫妻に、心からお礼を言いたい。長い間、ありがとうございました。

■ 日本産コガネムシ上科図説の効果

昨年8月に発行された糞虫の図鑑は、図版が鮮明で同定しやすく、珍稀度の表示もあり、糞虫人気の火付け役と期待されている。石川県の糞虫人気は低かったが、今年になって糞虫採集の意欲的な話があちこちから漏れ聞こえ始めた。

■ 3月1日桜の開花予想

気象庁は、3月1日にソメイヨシノの開花予想を発表した。金沢は、4月4日で、平年より2日早いらしい。とすれば、ギフチョウの発生は21日か。

■ 戻り寒波で銀世界

3月13日、14日、寒波の襲来で平地でも

積雪に見舞われ、桜には雪の花が咲いた。この降雪、ギフチョウの発生に影響するか。

■ 春まで後一步

休日とお天気が重なった21日、ギフの初見に出かけたが、オオイヌノフグリやマメザクラは開花寸前で、春はもうちょい先。

■ 例会の記録 ■

2月9日(木)城南管工1階にて、午後8時から開催。

今回は、井村会長がエサケルスオークションで仕入れた標本をこれ見よがしに披露する。同一場所で七色が出るレインボーセンチ、日本でまだまだ少ないコセスジゲンゴ、でかでかクビアカトラなど。

その他の話題は、ムラサキツバメは大丈夫か、ウラゴマダラは3人で飼育、大手堀の浚渫で何が見付かる、チビクワガタを探しに行こう、翔ニュータイプのお披露目式だったのに、などなど。

参加は、中西、松井、浅野、井村、細沼の5人と寂しかった。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井正人：石川県に於けるアサギマダラの北上調査 2005	1
日吉芳朗・日吉南賀子： 2005年の石川県輪島市におけるアサギマダラのマーキング調査	7
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	11

翔 179号

Tobu 2006年 4月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印 刷 小西紙店印刷所



撮影/松井 正人(表紙,c,d,a) 林 宏初(a) 竹谷 聖二(b)